



岷江入楚

竹汀

才曲十三

特別
~ 12
4604
43



47
113
464
43



行行

上田歳 童子の比古宮ツリとていふはふりわりのまふり

割置石は鹿遊に玉髪内侍とす

と髪所服始末を述べる

童子君が口住の侍事

十五歳に侍り

正月一日石をとりて入る

少寄石をたしと髪末の侍事

同日より入る

以付白髪侍の侍事

同く余も侍の侍事

一人がわ

注の侍事

お似が侍の侍事

お似が侍の侍事

小江文庫

翌日即位後送文書於院中

二月尚幼非若姊君与妹君并其母也 亦仍後見也

死人少如垣同見也

死人少如金坪非若也

死人少如朱若仍後行愛姊非若也

又朱中如局述懐也

四月上陽進於尚幼非若一人也

中如以行執尸死人也

九日玉鬘腹中非若系於泉院中

母君同系於中

其日死人少如送消息於中如非若也

源氏後帝系於泉院中

是若花也

死人少如如妹非若也

尚幼非若也
私但如非若也

自七月冷泉院御息所非若君懷妊也

源氏後系院御息所也

十六歲 秋江中如又任宰相

二月男踏款也 奉冷泉院也

源氏後系冷泉院也

院後以息所非若仍後系法皇也

院後与女房音物也

院御息所非若生也

中非若入内儀与尚幼職也

玉鬘上女之家也

十七歲

十八歲 秋任中納言

十九歲 童為宰相中將也

詞云くの中上源氏後とていふはうらまひとあり

此のしる中くつとて物なれにまゝくしてあらんうり
信之しつとていしは家或るあし一信の印を
とつたてし

秘 ありて父しとて或るあしに
尋 けつは家或るあしとて信之古くしてあしに家或る
作をゆらん

内侍のえれは
秘 けつとてあしとてあしとてあし
尋 けつとてあしとてあしとてあし
あしとてあしとてあしとてあし

おとこ二人あし
右兵衛督 あしとてあしとてあしとてあし
右大守 あしとてあしとてあしとてあし

頭中侍
冷泉院 けつとてあしとてあしとてあし
尚侍 けつとてあしとてあしとてあし

いかに中納言 次郎 志木 権と
あしとてあしとてあしとてあし

秘 けつとてあしとてあしとてあし

尋 けつとてあしとてあしとてあし
あしとてあしとてあしとてあし

あしとてあしとてあしとてあし

あしとてあしとてあしとてあし
白氏文集

あしとてあしとてあしとてあし
あしとてあしとてあしとてあし

あしとてあしとてあしとてあし
あしとてあしとてあしとてあし

中々よしとあるはあつゝのわづらひをこころひのり
菊正にたりしつら信白権留をわづらひの色わたりて
あつゝかたしつらあつゝはつゝ又お梅の威ひつゝ
又つらつゝお梅の威ひつゝ

ひつゝお梅の威ひつゝ

秘 菊正に信白たる人あつゝのあつゝをわづらひつゝ
菊正の威ひつゝ

このあつゝをわづらひつゝ

秘 巧言合色あつゝ

秘 巧言合色あつゝはつゝの字をわづらひつゝ
菊正の威ひつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ
あつゝの威ひつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

あつゝのあつゝはつゝの威ひつゝ

中天的の字

秘 明石中文字 景井

秘 花 人むくく

秘 花 正徳ころころんふふ

秘 已被揚地遠側目 台内文集上陽人景

秘 上陽人の詞

秘 かしら

秘 玉ころと菊正ころよ汝あり 水邊恒

秘 中いゆしてゆき 英くらタタメ湯セアリ

秘 泉流りの水邊恒とこりぬる

秘 ころころころ

秘 玉ころのこ

秘 ころころ

秘 玉ころのまつころころころ

秘 宿世ころころ

あせれ末

秘 子あせれ

秘 右大坂のあ人かお

秘 少吾の五男 源家お中お

秘 ころころ

秘 少吾具あ人がお玉ころおおい玉ころ源家のね

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

秘 ころころ

今
秘 子あせれ
秘 右大坂のあ人かお
秘 少吾の五男
秘 ころころ

いぢまをいへにのこゆし 昇つて人よのせし

秘 玉うつれぬるにわの君の父たはし遠言して内事り

の事をおれりよのぬりし 治の事いんがお母

をとりわりての持するし

ゆきしお守のぬすむるし

あねの造言し

おんまこといへぬし

あまこつてん

あねぬすむるのふしはわのふしをわし制と

くろく

あぶらとらうのふしとらうのふし

くろく

あぶらとらう

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらうのふしとらうのふし

秋

あぶらとらうのふし

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらう

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらう

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらう

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらう

あぶらとらうのふしとらうのふし

あぶらとらうのふしとらうのふし

六条院の御けはらうり

秘 童の海よりしとよふすゆへと 昇井

ありしうね

井 出らうめうしなまにうらうめふと

秘 出らう兄弟のせうまのめうめふり

院の御せ

井 海の御せ

い月乃つらうり

秘 出らうのす(ありあつて) 井

乙の志れらうめうのふゆ

秘 糸糸の太はいはるゆ

たうこらうり

秘 い大ゆをのほよつめり

花中ゆを二ふぬのるす

秘 花中ゆをの背にのゆ子母にやうし 花中ゆにゆり

のえうきし人あつてまのゆ

秘 色花中納言乃ほくしめり 井

花中ゆをの梅のふ方れ梅行とと一服の兄中

御うらうり

秘 少吾をといり

乙の介とらうりほくしめり

秘 少吾の志しとらうり若昇をを子中あつと

しつれらうり

秘 井 花のあつと

井 出らうとありなつと

秘 始志のふゆらなり

行くとらうり

秘 少吾方とまらうり

乙の志しとらうり

秘 少吾の詞 井

うらうり

秘 糸糸のゆ

秘 神あはれそえあつしるまゝあつしるまゝ 昇

あつしるまゝ

秘 是もい人のい詞也 昇

何 父母もと昔ころわれと昔もあはれつたはる花の梅は

秘 今の世房達の言に 可考はふりも昔に

何 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

何 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

何 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

何 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

何 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

おれおれ
おれおれ
おれおれ
おれおれ
おれおれ

秘 花 けいけいあはれそえあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 父母のるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 似ぬころる理あれ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

秘 今の世はあつしるまゝあつしるまゝあつしるまゝ

伊後志まは人の心を

充つる伊後に 兼

秋かたのあつこ

すま物あつこ

なりとふあつこまふあつこ之平の文字をいへ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秋かたのあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

秘あつこあつこあつこ

うらすくしうらん色
年若くする人むねしき

おとおとにうそをまうり

舞馬を結の人ありい後くりこむをり

ゆづり月の足

舟をとりつら

とくさげふもんか 花言女男踏きよわるる

秘 鏡を研すそせうのせふ

竹川をばりおす

竹川のもつあふる花のよけをまけてあり

あしあふらま海の人多れぬ人し月言か

一あをうら

秘 花 花のよけあ乃梅えいぬをばり言れあを

よや 舟をのういの同い

秘 河海鏡り月洞子ようあは

第 いぬと昌行川言あをうら月洞子

鳥のすみえのうらうらうら

け酒引車と云ふん 伴行

いふりておいぬ

これいぬをばりあをうら

うけい

秘 葦あとの酒を辞

あふりりなとゆらどこ

花細長を源のたれ纏ひよ

秘 うそてあをの 後後うらわけて

何あうつさけり 色をさけあをを

第 うらうてあをの 色をさけあをを

よあをの 後後うら

ひささきとてうら

あををりよとて又あをの 後後の

うらじやうとてあをの

秘 しかつわつたわらわのえはまらうりは後

秘 後の名をさしおしおとせ 弁作をうらのす

秘 見ゆに 鞠をよめたり 右のたに

秘 中ねまつるのいりかう

秘 まつるいひおきておのまつるまらひもせむ

秘 まつるいひおきておのまつるまらひもせむ

秘 まつるいひおきておのまつるまらひもせむ

秘 まつるいひおきておのまつるまらひもせむ

秘 まつるいひおきておのまつるまらひもせむ

秘 まつるいひおきておのまつるまらひもせむ

秘 凡尚書郎管轄之任権衡之職也を楯具人と象七

星故也 云握蘭職也

私尚書郎はすかり弁官也

兄中ねの親に 弁

兄志二人のんれりり但中ね一人は次は年れるわり

秘 中ねの同よていん

秘 中ねの同よていん

秘 中ねの同よていん

秘 中ねの同よていん

秘 中ねの同よていん

秘 媛をくらおとせとせり

にに掃きとせり 第中おのせり

婿をくらおとせとせり 第中おのせり

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

くらおの

人の心にあたり

秘 中おの

花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 花よん

秘 兄中より申ねふと

とてのうらな花をのめをともねと

秘 花ね葉おしゆき骨信しすをたつたおぶつめふ

申ねのむつつ(の)吳尼の翅(昇)花よまうつ(り)向

て下ね庄の柳よわはぬのいひるふんむら(り)心かおま

書(ま)い(り)つ(ら)よ

秘 申ねふと(の)ヤル(り)や

秘 上の(河)もつ(け)て申ねの(東)東(交)も(出)水(や)ぬ(る)様(で)

秘 け(や)り(め)ら(む)包(く)と(あ)じ(り)の (み)つ(り)

秘 夕(音)の(才)一(女)れ(世)下(ま)り(ぬ)り(る) (り) 井

秘 玉(ろ)の(返)答(や)

秘 ぬ(お)り(せ)し(か)は

秘 如(舞)正(や)

秘 ぬ(お)り(せ)し(か)は

秘 ぬ(お)り(せ)し(か)は

申ねふと(り)申ねて

秘 申ねふと(り)の(兄)三(と)

あ(ら)う(い)ぬ(あ)り(く)と(け)め(と)

秘 余(朝)上(王)荆(公)と(り)人(鍾)山(よ)わ(り)て(藤)秀(才)と(其)

を(こ)心(梅)清(一)そ(む)を(賭)と(可)秀(才)を(け)て(不)能

作(約)王(荆)公(代)て(作)行(る)の(り)代(の)る(子)は(と)

花(を)賭(す)す(る)の(り)代(の)る(子)は(と)

秘 花(を)王(荆)公(る)を(い)ま(り)興(わ)る(る)又(字)法(よ)菊(を)

け(め)す(る)の(り)代(の)る(子)は(と)

子(一)は(り)ぬ(と)

之(中)に(二)は(り)ぬ(と)

花(を)王(荆)公(る)を(い)ま(り)興(わ)る(る)

秘 禰(不)子(わ)つ(ら)人(梓)妹(の)こ(り)あ(れ)や

秘 此(い)の(あ)ね

秘 花(人)が(お)も(あ)る(れ)後(の)こ(り)あ(れ)や

秘 花(人)が(お)も(あ)る(れ)後(の)こ(り)あ(れ)や

秘 花(人)が(お)も(あ)る(れ)後(の)こ(り)あ(れ)や

秘 花(人)が(お)も(あ)る(れ)後(の)こ(り)あ(れ)や

うらつて

秘

後を中折弁、若れうらつておかし

秘わき若

ゆらつて父のわがめし

花わき若れうらつてのりうかむる

可称若れうらつてのりうかむる

秘

またららあはのうらつて

痛笑と衣いさうせめてうらつておかし

秘

若れうらつて

秘うらつての若勝れおかし

こまのしげうらつて 花言聲乱 競うあはに勝つて

秘言聲乱の系也競うあはに勝つて

け 言聲乱 言聲乱の系也競うあはに勝つて

言聲乱の系也競うあはに勝つて

言聲乱の系也競うあはに勝つて

言聲乱の系也競うあはに勝つて

あはれうらつて

川のおまんとうらつてあはれうらつて

妹の若れうらつてあはれうらつて

花乃あはれうらつてあはれうらつて

若れうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

あはれうらつてあはれうらつて

さうとてついでにこの御札を
右のまねき

引

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

御札のついでにこの御札を
御札のついでにこの御札を

くわいのこと

秘や升屋也 昇昇

秘 花人がおの母や升屋あつたれ白紙のうたわわの

くわいのこと

秘 せ升屋の文の類 昇昇玉ころの事(や)

秘 けりしうわさしわは

秘 人のる後さあつたれし回りの事

秘 せそ始末のりそを隠しつるわ(と)也 昇

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

秘 玉ころの事

いふはのちたつたのいふはにぬらぬらと

秘 かくれおのて

第 かくる文作とて

かくるいさあはて 傳よの例のさうて

れいさあおのて 第 かくるのさう

第 かくるのさう かくるの文とて

かくるの文とて かくるのさう

秘 かくるのさう

かくるのさう

花
いふはのち
かくるのい
ひさあは
さうとて
かくるの
いさあは
かくるの
いさあは

けいさあはのいさあはにぬらぬらと

秘 かくるのいさあは

第 かくるのいさあは

かくるのいさあは

かくるのいさあは

かくるのいさあは

かくるのいさあは

かくるのいさあは

かくるのいさあは

かくるのいさあは

そやこじれや

秘 死んがりおの詞や

第 けつてその決まて御方につねめうとてさし

取つかよはれしつれ

秘 常よにれはふりしつとて何やめいれはつとにとらん

平 也助言なとPたるも一と也

平 まつととららんし 兼おつからぬとてし兼日温使つたぬ

りくせよとてまらつ海

りくりにつとてあつや

秘 先くそとて夏のよとて

第 まくそとて助言のん

こしれつとて

秘 中がらふらんしとて

秘 そやあつねあぬぬにふたぬ人よまけ一たのあつや

秘 此泉院つらねに御方ねあぬぬとて

中がら

しつとてはつとてし勝まけとてつとて

秘 国夏のねもれ強弱よとてあつと勝方なれつと

秘 文よつとてつとて助言と中あつと

第 一切の勝負なりとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

第 中がら

秘 又死んがり

あつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとて

秘 夏のよとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとて

第 中がら

あつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとて

あつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとて

あつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとてはつとて

かたの命は涙をこころに抱き 恩の上におかするも
遠きして多分なるるわらわれとくた院（乃街）の
し街遠愛あり神の息を獲生しや ことくよおれの
生元は唯夫の血を返すわらわらや

又の日は卯月

卯月一日の事也

必平庵より一書

内よありゆきしよ

卯月一日に向ふまされの午庵わがわの兄方より来た

とあり

いそぐししちや

花人がおのこ也

母水のこころをこころとて

秘や丹也

行くと

秘り書る也

院のこころあり

秘 此泉院也

かたの心をけしとる也

秘 行くと

秘 わらわらや

常よわんはてはしと通するは但書白わらわら

あつと書く

きりあんのつてあり

秘 正月一日に後人し時におくゆくとるあふり

秘 わらわらよめ

秘 みるあふらよめ

秘 夕暮のあふらよめむらうれゆらふらてけり物と

と後梅

秘 秘 花人がおのこ也

秘 花のりもそとけふのけしはゆらよめよりはらふ

秘 花のりもそとけふのけしはゆらよめよりはらふ

秘 花のりもそとけふのけしはゆらよめよりはらふ

秘 花のりもそとけふのけしはゆらよめよりはらふ

街けきう人の趣へ

つらるる人がおの命めし又も

申おの祈りさうに

まへに申おの祈りさうに

つらるる人の祈りさうに

のや

いさうのあまの祈りさうに

又経りさうの祈りさうに

わさうの祈りさうに

行々山のうら

第1号の祈りさうに

つらるる祈り

秘 申おの祈りさうに

第2号の祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈り

秘 申おの祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈り

秘 申おの祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈りさうに

つらるる祈り

秘 申おの祈りさうに

つらるる祈り

つらるる祈り

九つにうまひりぬふ
何備下大老多入次泉院四月九日

大上天皇納妃例

寛平法皇以京極所息所為妃大下
四月九日息むつれ嫡女院の所よりぬふ京極所
息所の例也 并

右の二例

秘 少帝むろくと先帝さるのり也 并

小のこゝし

秘 重井屋也 并 兼

この西丹のり

秘 兼 兼人がおるのゆゆ也

うゝあうりしかもし 兼人がおるのゆゆか
ゆいて又い世所ありまうゝあうりしゆゆ也

わやううううしゆゆか 兼人がおるの

秘 兼 兼人の文れ詞もゆゆか 兼人がおるの

兼人がおるのゆゆか 兼人がおるのゆゆか

利

うけは海りりゆゆか

秘 兼 兼人のゆゆか 兼人がおるのゆゆか

わらぬをゆゆか

おのりかゆゆか

秘 兼 兼人のゆゆか 兼人がおるのゆゆか

ふつゝ色素ゆゆか

秘 兼 兼人の文の詞

つゝ心ゆゆか

秘 兼 兼人のゆゆか 兼人がおるのゆゆか

ゆゆかゆゆか

兼 兼役

上古極周の子息も兼役と勤とゆゆか 兼人がおるの

兼人がおるのゆゆか 兼人がおるのゆゆか

ハ上古の兼也

源がわらゆゆか 兼人がおるのゆゆか

兼 兼役 兼人がおるのゆゆか

上古極周の子息も兼役と勤とゆゆか 兼人がおるの

兼人がおるのゆゆか 兼人がおるのゆゆか

あまのりしに

あまのりしに

わが世の常あはれ世のこころいれり人よつらむかのうは
秘 世のこころいれり人よつらむかのうは
秘 世のこころいれり人よつらむかのうは

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

あまのりしに

いとよめて

おろろ此院と巨首とありと此院の御母也

口行しうんうしや

秘院のゆゑ也 弄

源後後のま

つゝるま

院のうらま

此院の院中に董よゆりしむゆりまあり

あゆりま

秘 菊正の娘まのゆりま 弄

あゆりまゆりま

秘 ちりまのゆりまゆりまゆりまゆりまゆりま

弄ゆりま

ゆりまゆりまゆりまゆりまゆりま

ゆりまゆりま

弄今女街也

弄

弄及泥
在ナラ余
不六見
物ヲトヤ
又松山ノ
んニ松司
コトト云
此モお及
ハ又お松
コトト云
コトト云
コトト云

董 ちりまゆりまゆりまゆりまゆりま

花 松もゆりまゆりまゆりまゆりま

弄 松もゆりまゆりまゆりまゆりま

秘 弄の心今女街のまゆりまゆりま

董のまゆりまゆりまゆりまゆりま

弄ゆりまゆりま

松山のゆりまゆりまゆりまゆりま

あゆりまゆりまゆりまゆりまゆりま

てれ

弄ゆりま

秘 董ゆりまゆりまゆりまゆりま

ゆりまゆりまゆりまゆりまゆりま

弄ゆりまゆりまゆりまゆりま

董ゆりまゆりまゆりまゆりま

弄ゆりま

秘 弄ゆりまゆりまゆりまゆりま

ゆりまゆりまゆりまゆりまゆりま

不^社のしりしりあきくせに

むろ^社のしりしりあきくせに

わのあきくせに

えんのあきくせに

いん^社のあきくせに

むろ^社のあきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

あきくせに

等
あ古昔お所が被撰定款以下兼物以と人の行
列次分おと後お中院習礼二三百あり二日於中院
試ホ

口位の紅後太のつとて
大款乃あり助之

右のくとき 一平款乃之
等乃六人 祿に又子保掛各一領

等掌以下舞人ひと又子保衾各一條
樂人九人各襖一領

十日の月 等式日

川ありりりそく此泉院一
川せしりりりりり

延元十六日踏方系下尚侍并一親王宿直あり
みやすお色

秘
いまの娘も之りしてまたおとんり
たのたぬ致仕のふぬのうらばつりして

秘
少魯致仕たたのかれ人いりりりり
の院をい

等
此泉院物のと手とてたりりりり
此泉院也

秘
あつしんかしてとるやとて
娘ものおもあつしんかしてとる

花
綿りて花とてりりりりりりりりりり
踏方れりりりりりりりりりりりりりり

八日新定踏方しりりりりりりりりりりりりりり
綿一連祿新綿十連綿は花新綿二七系三兩調進之

件綿は花之綿給作地本合削繕之石末門官人杖元
五枝進之りりりりりりりりりりりりりりりりりりり

竹川うらりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

等
七年正月のりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
内裏よその儀の綿を内苑の方よりおす内苑の儀

深修庵を院より移し一室を
萱成は泉院のやうなり

内裏よその作はるに泉院のむよこころなり

院の作は所自愛の心初て

万春系踏音曲 勅初音奏

踏音よりいひ神家のいぬ万春系ふり

いひこ同云万秋系と踏音の入りあり万春系

一巻の月かけ

踏音の巻の巻なり

花人のがねの月れ光よあやこころはらまきこころの
いひよころまのわすれやまをせんをのとりこころを
花人がお院よりいひよみは桂のかけよころ
のあつとみしとみし里の作をれ兼中より
ゆいよそをれとこころもみしこころ
神云がねをりよりやサレト桂ノカケ侍ニハラスヤトハ
桂男ニ非ヤト云んややと上近ニハサニモ見エサリキト
イニそんみしタリ 松云は萱のいんがねをいひ
おとすやうにまこころにまこころのいんがね
さよかこあ月の月かけをいひれつとそつれは
らつとみしと早下也
がね奏男や月の影をいひ桂男よいあつと院中
ていさかみしとこころとこころとこころとこころ
又云桂の影よりいひ桂男のいひさうにみしわんこ
ころよりいひわんこやこころのいひさうの相也
又云をよ内裏よりいひ泉院よりいひ月かけをいひ

みしりまはすまのおりしきすしとちうひのわじりま
あり物

そのとりうそつと院中そのる院をかうしと
つらみしそつしといけるをウレニヤト

又院中此月中のこころみれをて桂男のこころ
みつこころをみしりこころとていひつるつ
ありいと弄

こころをみしりこころとあり
がねあまふれい桂男のこころをみしりこころとい院
中をみしりこころをみしりこころとあり

院をみしりこころとい院をみしりこころとあり
院をみしりこころとい院をみしりこころとあり

私院人がねあまふれい桂男のこころをみしりこころとい院
中のこころをみしりこころとい院中のこころをみしりこころとい院

中のこころをみしりこころとい院中のこころをみしりこころとい院
中のこころをみしりこころとい院中のこころをみしりこころとい院

わかれとまうともわり

まうとの草よまうともわりと又院人がねあまふれい
中ねのねりまうともわり

やえいわやまうともわり
花春のよのねいわやまうともわり

花春のよのねいわやまうともわり
花春のよのねいわやまうともわり

花春のよのねいわやまうともわり
花春のよのねいわやまうともわり

花春のよのねいわやまうともわり
花春のよのねいわやまうともわり

花春のよのねいわやまうともわり
花春のよのねいわやまうともわり

花春のよのねいわやまうともわり
花春のよのねいわやまうともわり

簾才女名

竹川のうねのふとらふりこころをみしりこころとい院
中をみしりこころをみしりこころとい院

女ふりしるゝ

弘徽の取腹也

くくくくくくく

高直の取腹なりは泉院ありし御也

けりし見れぬと云ふ

御人くくく皆御侍と云ふ世と皆くれく

女の中おの志れ

手と申す

女侍くくくくくくくくくくくくくくくくくく

物のつねくくくくくくくくくくくくくくくくく

は兄心ありと云

くくくくくくくくくくくく

可申すかくくくくくくくくくくくくくくくくく

第引い言事

うへてけりし御也

第秋好中文弘徽の女侍

内よにまゝに

姫君の院へありけりゆに弘徽の御也

おやけい御もまじら

いし中姫君の御也公役をなすてまじらんとて

譲任わると云事

おやけい御もまじらゆにありまじら

わくくく御もまじらゆにありまじら

尚侍言職をなすてまじらゆにありまじら

てんくくありまじらゆにありまじら

ゆに云事

におくれゆにまじらゆにありまじら

留思也出てあるまじら女官ありまじら

譲任ありまじら御也當代の娘れ園白く他くまじら

くくくくくくくくくくくくくくくくく

ひくくくありまじらゆにありまじら

尚侍譲子例可也

秘 菊正のゆきとんり

奇 源氏のおせよめてむろくふと方こしきしきりて花
後すもみ波之入らひ不十、菊正とん

・ 菊 景正の存生みり人の世後よりふまうしきとん

・ 菊 中志とんよまをまきしき物とんり

・ 秘 中志とのゆきと
まより美人のまこしわりしとゆきゆきとん

・ 妹の志とてまきて井く人ふゆりしゆきとん

・ 秘 此のゆきと
ゆきとんり志

・ 秘 中志とんよまをまきしき物とんり

・ 菊 中志とんよまをまきしき物とんり

かろくふわりとん

秘 非志とんり

君とられしゆきと

中志とんよまをまきしき物とんり

うらよ討

内約のゆきとんり

院よのゆきとんり

秘 院のゆきとんり

ゆきとんり

秘 院のゆきとんり

かろくふわりとん

秘 院のゆきとんり

ゆきとんり

秘 院のゆきとんり

ゆきとんり

秘 院のゆきとんり

ゆきとんり

中納言(長)

まうらうしきまうら

まうらうのなか

わふらまうらういひあ

まうらうわらうまうらうまうらうまうらうまうらう

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらう

まうらうの

まうらうのあけく

まうらう

まうらう

まうらう

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらう

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらう

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらう

まうらうのあけく

まうらうのあけく

まうらうのあけく

い中ねらねたもいふはてしなくして

^秘 氏人かたなりし人三任中ね也

并等

后大后のついでに先をいふはれ

竹川乃后大后系圖ありし人也

^秘 竹川乃后大后系圖ありし人也

氏族を分明也

みりのもてあり

^秘 非后よねんつてしる也

東海のみらねてあるはつら言はれしつらもとわん

^秘 并等

まよりやあけのこ

況中の祈不和あつた也

うらのこえに申りく

^秘 内分のつえ也

后大后とせりて

^秘 ありし也

并竹川并

右后上

^秘 少音のち大后大后とありなり并

竹川乃大后系圖の少音たりた情也

大后の言た大后のけりて大后とありなり

^秘 河海乃大后の言の九条右丞相の事とひまりを興あ

るなり也

^秘 河海乃大后の言の九条右丞相の事とひまりを興あ

河海乃大后の言の九条右丞相の事とひまりを興あ

其之集云天慶六年正月右大后の御の山をうりこ

しそ年よりわたりし皇族をいふはれしつらもとわん

九条右丞相と大后の御の山をうりこ

大后の御の山をうりこ

國史云右大后後二任右原御と守河後守後五位上

真作中五子也守早入大寺受習五位上

歴文章生人任大后并大将例付時左人任る

菅家

秘女所と秋好

川をわたりて

まふらにそとてあひひのま

秘女三まのまに院よりのもちあはす

秘とるに遊生のまのま

秘今女所のまのま

秘あまのまを里まのまをまのま

秘ろれまのまを

秘里をまのまのまのま

秘久しにまのま

秘院かまのまをまのま

秘ほのまのま

秘あまのまに院

秘とるに院

秘女所秋好

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

秘あまのまをまのま

きいせんのはりそと

^秘 ひとりり廻し

わそのいそとらと

^弄 わつこもきや ^秘

^弄 是のわたりよもとあつは思ふれはるのよもあつと

いりり清くあつらふ

私達とらふ清くあつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

人のあつと

^秘 ひとりり廻し

^弄 物のかつとあつと

あつらふはるのよもあつと

私人のあつと

あつらふはるのよもあつと

^弄 ひとりり廻し

あつらふはるのよもあつと

^弄 泉院のあつと

宇治のいぬあつと

^秘 宇治八文のあつと

^弄 推すの中あつと

あつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

^秘 ひとりり廻し

あつらふはるのよもあつと

あつらふはるのよもあつと

む 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり
あふをりううてまうあふや

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

あとのいんか

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

賭り還答 五福

後橋大庄のむせお梅里のねれあふわされ

三茶大庄
女房のう

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

まういりあふにり

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

あふをりううてまうあふや
あふをりううてまうあふや

秘 昔いねお梅れち大庄のむせお梅里のねれあふわされ
てお大庄の大答おんねふとて人いわまふわり

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

たか上... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

右 兵衛 古久年

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...

秘 物たるは... 秘 物たるは... 秘 物たるは...



